

農 林 水 産 大 臣 賞

株 式 会 社 美 土 里 農 園
(栃 木 県 芳 賀 郡 茂 木 町)

【 完熟いちごがつくる人と地域と笑顔の里 】

【取組の動機、主なむらづくりの内容】（平成28年6月に株式会社設立）

- 遊休農地対策として、地権者が集い「深沢パパスの丘協議会」が設立され、じゃがいも等の収穫体験を通して都市農村交流を図り、地元を盛り上げたいと7年間活動したが、高齢化や後継者不足により活動が年々縮小、遊休農地が目立つようになった。
このため、町と相談し、「地域外から農業の若い担い手を呼び込み、育て、繋ぐ」新しい形の体制づくりの検討を進めた結果、遊休農地の解消、生産性の向上や担い手を確保し、持続可能な農業を実践するため、法人を設立し、各種活動を展開中。
- 運営する農地ではいちご(60a)、アスパラガス(18a)、そば(1.8ha)を栽培し、直売に加え、「道の駅 もてぎプラザ」や「いい里さかがわ館」などに出荷。
そばの栽培については、地元のそばの栽培団体「茂木南部農機具利用組合」と連携し、地元農村レストランへの供給体制を確立。
- 「第1回全国いちご選手権（令和5年）」で「とちあいか」が金賞を受賞するとともに、令和6年には、近隣のいちご農家が同選手権で金賞を受賞したことにより「茂木町産のいちごは完熟で甘い」と大きな宣伝効果ともなり、いちご観光農園来場数、売上額も、6年間で約5倍に増加。【来場者数：4,600人、売上額：5,200万円（R5）】
- 農業に携わる地域おこし協力隊員を積極的に受入れ、令和6年までに11名が勤務、うち4名が任期満了後、従業員として営農、総務業務に従事。
女性の隊員は、営業（EC通販）業務担当として、女性ならではの視点を生かし、加工品の開発、PR活動を展開。従業員数もパート含め16名と、雇用の確保に寄与。
- いちごの収量増や品質向上を目指し、暖房で排出されたCO₂の再利用する機器を導入するとともに、ハウス施設内のモニタリング装置を設置し、農業の省力化も含めた実証実験を実施中。



美土里農園の従業員



深沢地区集出荷・農業体験施設



いちごの摘み取り体験



地域おこし協力隊等によるいちごの選定作業

農 林 水 産 大 臣 賞

農 事 組 合 法 人 大 田 営 農
(埼 玉 県 秩 父 市)

【 常に新しいことにチャレンジしながら地域農業を支える集落営農法人 】

【取組の動機、主なむらづくりの内容】（平成28年4月に法人設立）

- ほ場が狭小で用排水整備も不十分で営農効率が悪かったことから、昭和63年に県営ほ場整備事業を導入した。このほ場整備をきっかけに、生産意欲が高まり、その機会を捉えて市やJA、県など関係機関が支援チームを編成。
今後の営農に関する全戸意向調査の結果をフィードバックする過程で、集落営農組織づくりが必要との機運が盛り上がり、平成4年に現法人の前身となる「大田営農推進協議会」を設立、平成28年に法人化して地域農業の担い手として活動中。
- 地区の水田50haの3年一巡ブロックローテーションを現在まで継続し、小麦、大豆、水稻の3品目の輪作による生産性の向上。【33年間継続】
市内の酪農家との耕畜連携により飼料稲3.5haを栽培し、飼料の高騰対策を実施。
- 特徴あるウイスキーを作りたいとの地元ウイスキー会社からの要望により、原料の大麦生産を担い、約100年前に埼玉県が選抜育種した品種「ゴールデンメロン埼1号」の栽培を平成28年産から開始。同品種は長稈で栽培が難しいものの、試行錯誤しながら毎年供給。【現在は約7haに拡大】
- 秩父市から依頼を受け、農薬や化学肥料の使用量を低減し、市が推進する土づくりにも配慮した農産物（水稻、ばれいしょ、たまねぎ等）を栽培し、市内の全小中学校（21校）の学校給食に提供。
- 秩父市と姉妹都市提携している東京都豊島区の子供たちに田植、稲刈りなどの農作業体験を、協議会時代から長期にわたり大田営農が中心となって実施し、延べ2,800人を受入。



大田営農組合員（役員）



二条大麦の収穫作業



学校給食で提供された「華麗舞」のカレー



豊島区との稲作体験交流



農 林 水 産 大 臣 賞

お お し の 緑 地 会
(千 葉 県 佐 倉 市)

【 独自の活動で「ふるさと愛」をはぐくみ、誰もが自慢の大篠塚に 】

【取組の動機、主なむらづくりの内容】（平成26年7月に組織設立）

- 多面的機能支払交付金制度の導入を機に「おおしの緑地会」を設立。地域将来構想を検討するため、住民全員を対象とした「将来の地域の在り方に関する意向調査」を実施し、その結果、農地は荒廃させたくないが担い手がないという課題を改めて実感し、それらの課題を解決するため、農地維持活動に加え、地域住民を巻き込んだ各種地域振興活動を展開するとともに、活動を継続するための人づくりを実施中。
- 耕作者会を定例的に開催し、地域農業の課題や施策を整理して実践につなげる他、行政等の関係者を招いた研修会などを実施し、農業者のレベルアップに努めている。
令和2年に集落営農組織「おおしの耕作組合（農家8名）」を設立し、各自が所有する機械を活用して作業を分担して耕作をすることにより、離農者3人の農地を全て引き受け、耕作放棄地を未然に防止。
- 農家のみならず、女性や子供も含む地域住民が参加し、田植え開始前に農道や水田へのポイ捨てゴミを拾う「春のクリーン活動（毎年約40名参加）」を行い、農業環境や景観の保全に貢献。
また、「お米一升支援活動」等を通じた福祉施設への支援、県土木事務所と連携した「川土手の環境維持活動」等で、美味しい米作りへの農家の熱い思いを盛り上げている。
- 市が主催する「佐倉・産業大博覧会」に令和3年度から参加し、地元農産物の販売や活動の取組紹介を行うとともに、本活動として平成30年から年末の「ワイワイ感謝祭」を開催し、子供も大人も楽しめるバーベキューや和太鼓の演奏なども行い、地域内外や子供たちの交流等を深めた。【96人参加（うち地域外26人）】



佐倉・産業大博覧会参加の構成員



植栽活動による景観形成



クリーン活動（農道等のゴミ拾い）



年末開催のワイワイ感謝祭